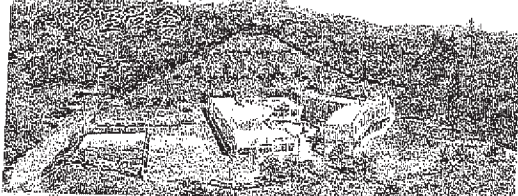


社会福祉法人 佑啓会



佑 啓

社会福祉法人 佑啓会 ふる里学会
〒290-02 市原市今富1110-1
☎0436-36-7611
発行所 里 見 吉 英
編集者 三 股 金 利

地域で暮らす

里見 吉英

グループホーム制度の生みの親である、当時の厚生省児童家庭局障害福祉課長 浅野史郎氏は、グループホームの設置・運営ハンドブックの「発刊に際して」の中で「グループホームは無限の可能性を秘めているといつてよいでしょう。知的発達に障害のある人の地域生活は、グループホームによって可能になるのです。障害の重い人も高齢の人も地域社会の中で、堂々と暮らせる日本の社会を一日も早く築きたいと思えます。今回の制度化は、そのための第一歩です。」とその目的を記している。

ノーマライゼーション理念の浸透の中で今、欧米では施設中心型福祉から地域福祉へと障害福祉の流れが大きく変わってきているといわれている。日本においても知的障害を持つ人達の地域生活援助のニューウェーブとして、平成元年度にスタートしたグループホーム（地域生活援助事業）も、平成六年度には六百四十ヶ所に達し、地方自治体の制度や無認可のものも合わせると、グループホーム・生活寮等の共同住居は一ヶ所所を越えるといわれている。

グループホームが制度化されたことによつて、これまで成人に達しても施設が家族と一緒に暮らすしか選択の余地のなかった障害を持つ人達の人生も、アパートでの暮らしや結婚生活など地域に大きな広がりを見せるようになってきた。こうしてグループホームは、本人はもとより家族からの期待も大きくなり、最近では障害の重い人達も対象にして欲しいという要望も高まってきた。

日本における障害福祉はまだまだ施設福祉が中心で、地域生活援助のシステムや社会資源は必ずしも十分でなく、このことが障害を持つ人達の地域生活を不安定なものにしている。

千葉県においてもグループホームは四ヶ所、県の制度である生活ホームは二十七ヶ所と、全国的レベルと比較すると、数の上でかなり下回っている現状にある。

我が国において今、入所施設で約十万人の人達が生活している。さらにこれだけでは足りず、毎年三千人分の入所施設を作り続けている。これに対してグループホームの新設は、年間百二十ヶ所・約五百人分にしかならない。この傾向は千葉県においてもさらに顕著である。

毎年、全国で百二十ヶ所新設されているにもかかわらず、千葉県においてその数が伸びていないがその解決には以下のような課題の改善が急がれる。

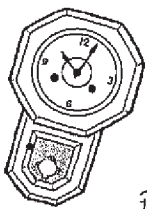
1. 住宅については建設補助のアップ、および公営住宅を利用できるような制度の改正。
2. 入居者に関しては地域生活者としての所得保証制度の導入、入居条件の緩和（全員福祉的就労、また通所更生施設でも可とする。）
3. 世話人については、その身分の保証・労働条件の改善。
4. バックアップ施設については専任職員の配置及び施設のリターン制度の退所後一年以内を緩和。
5. 保護者の入所施設依存からの脱皮。（自己決定）
6. 入所施設の積極的な社会参加促進と、グループホーム制度への理解。

グループホームの素晴らしいところは誰もが認めることである。しかしその反面、世話人の労働条件の悪さ、入居者の経済基盤の弱さ、バックアップ施設の負担、その制度上の問題点等、運営基盤の脆弱さも誰もが認めている。

現在入所施設は月額一人約二十五万円の措置費をかけている。しかし、グループホームはその四分の一の六万程度程度の委託費に過ぎない。障害年金についても衣食住を措置費で賄われている施設と、全て自分で生活するグループホームが同額となっており、あらゆる面において差が大きすぎるといえる。

また、現在のグループホームの入居条件は、「数人で共同の生活を送ることに支障がない程度に身辺自立ができていないこと。」「就労（福祉的就労を含む）していないこと。」「日常生活を維持するに足る収入があること。」「等の全ての要件を満たしていることとなっている。このグループホームの設置・運営マニュアルどおりでゆくと、障害の重い人達は全く対象外になってしまふことになる。これらのことがグループホームへの信頼感を希薄にし、一層入所施設に依存を深めてゆくとという大きな要因となっている。

グループホームの運営基盤を安定したものにし、設置数をさらに拡大してゆくためにはホーム開設時の住宅整備資金の助成の充実、公営住宅の優先入居や家賃補助さらに世話人の賃金・労働条件の改善など大幅な制度の充実が望まれる。



(施設長)

これまで、生活の場や働く場などあらゆる援助機能が一ヶ所に集まっていた施設から、今後は地域福祉の進展に伴って、生活の場であるグループホームや共同作業所が地域に点在することが予想されるが、その際それぞれの機能が孤立無援とならないよう援助ネットワーク作りがテーマになってくるものと思われる。

「スキーをする人、ふる里学会の皆さんからお誘いがありますよ。」と主任から誘われたのは一月半のことでした。「はい、行きます。」と私たち四名が名乗りを上げました。行事や研修等でふる里学会や袖ヶ浦福祉センターの先生方とは顔を合わせてはいましたが、一緒に旅行は初めてでしたので、少々不安はありましたが・・・

一月三十一日、あいにくスキーマは十年に一度という大寒波にみまわれて、吹雪の中での寒いスキーマとなってしまいました。何より楽しかったのは、皆さんとの夕食からでした。お互いの学園の話に花が咲き最初の緊張はすでになくなっていました。

夕食が終わって、部屋に戻ると、すぐ二次会のお誘いです。一室に二十数名が車座になり、先ほどの続きが始まったのです。再び盛り上がりつつあると終わりのない酒宴に「宴会ではどこにも負けない。」と言われた言葉が頭をよぎりました。止むことのない雪と同様、部屋の熱気は冷めることなく深夜まで続きました。

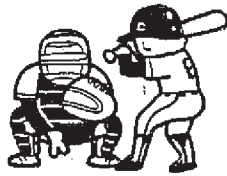
内容はヒミツですが、めったに味わえない三日間のスキーマ旅行でした。来年もまた誘って下さい。

大久保学園指導員
須藤・根本
渡部・尾形

誘われて



1年B組 校外学習



市原市内三和中学校の10名の生徒さんが、校外学習の一環として学舎を訪れました。

例年は鎌倉だったようですが、今年はグループにわかれ、福祉施設での1日体験となったそうです。

今回校外学習に行つて、行くまえと行つてきてからの気持ちが変わったことが一番の収穫だと思ふ。行く前は「嫌だなあ」。今までの一年生どうり鎌倉のほうか絶対良かったよなあ」などと言つていたが「今はちがう。やろうと思つても、なかなかできない、とても貴重な経験ができて、本当によかったと思つている。

ふる里学舎でおどろいたことは、建物のうやうやアなどの造りが、人権などをきちゃんと考えていて、とてもくふうされた造りになっていたことだった。とうげいなどのやり方を教えてもらつて、とてもためになった。またいつかきかいがあつたらぜひひいてみたいと思ふ。

(1年B組 六班 林哲也)

二月二日、待ちにまつた校外学習の日がやってきました。最初は不安だったものの、ふる里学舎の皆さんといっしょにすごしているうちに、不安というものはなくなりました。

まず最初にやつたソフトボールは私達もびっくりしてしまいました。みなさんの投げる球の速さといつたらさうとうものものでした。さすが優勝しただけあるなあと思ひました。

そして午後からの「とうげい」皆さんが作ったお皿などとても上手でした。私達もやらせてもらったけど、なかなかうまくできないもので「よくこんな上手にできるなあ」と関心してしまいました。帰る時、この一日がとっても短く思ひました。きっとその一日が時間を忘れるほど楽しい一日が過ごせたからだと思ひます。

私達にとっても親切にしていた先生方、一緒に遊んだ皆さん。本当に楽しい一日でした。また、行きたいなと思ひました。

(1年B組 六班)

麻雀と私



突然ですが私は、麻雀が好きです。趣味は何かと聞かれたら真つ先に麻雀と答えてしまふ程です。

今回は、その麻雀の魅力について書きたいと思ひます。

九才のとき、私が自分の部屋で寝ていると奥の部屋から何やらジャラジャラという音がするではありませんか。眠い目をこすりその部屋にいつてみると、大の大人が四人も小さい机に向かい合つて真剣な顔をしてブロックのようなものをいじつています。

この人達は何をやっているのだろう。

その後、父よりあれは麻雀だと聞き、なぜだか私もそれをやりたくなりルールなどを教えてもらひました。

これが、私と麻雀との出会いです。

以後、小学校・中学校・高校とTVゲームと友達同士のお遊び麻雀では飽き足らず雀荘にまで足を運ぶようになってしまいました。

雀荘と聞いて皆さんはどの様なイメージを持つでしょうか。多分、大半の人は陰気臭く悪い人達の溜り場の様な所というようなイメージではないでしょうか。

私も正直言つて最初はそう思ひ、入るのをためらつた程です。

しかし、実際はその様なことはなく店員は礼儀正しく、若い人からお年寄り更には女性までが集う明るい場所なのです(私の行くお店)

だが、一度麻雀が始まればみんな机に向かつて真剣勝負。友達同士では味わえないこの緊張感が言葉では言い現せないほどの快感なのです。

麻雀は、牌を揃えて役(決められた形)をつくるという単純なゲームです。

その役には、いつでも出来る簡単な物もあれば、一生のうちに一度出来るかどうかと言う物があります。

どの役を作るか自分でそれを仕上げるため様々な難関を越えなくてはなりません。時にその難関を越えられず悔しい思いもします。

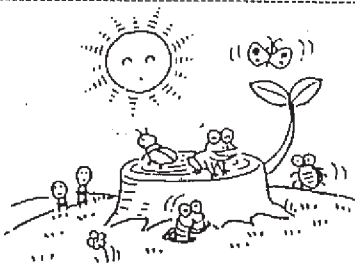
私は、麻雀を打ちながら「これはまるで人間の生き方を現しているようだ」と考えることがあります。

何事もうまく行くとときもあれば何をやってても駄目な時がある。成功と挫折の繰り返し。

これこそが、麻雀の魅力なのです。つまり私にとって麻雀は人生だったので

大学を卒業し、学舎へ就職して約二年。あれほど熱かつた麻雀熱も冷め、寮生さんとの原木運びに熱くなっている毎日。今では職場が人生なのです。

指導員 丸 晶



ありがとうございました！

この度、千葉県共同募金会を通じ、平成七年度NHK歳末たすけあいによる、物品の寄贈を賜りました。

ここに報告を申し上げ関係各位に謹んで感謝の意を表します。

放送機器一式

オーディオミキサー

パワーアンプ

スピーカー

マイク 総額二十五万円

編集後記



期待と不安の春はすぐそこ。時は否応なく、平等にやってきました。この一年何をしてきたのか？

頭髪が少なくなるに連れ増える酒量。

若い人が眠つた後で、ふと終宴に気付く。

さあ、明日も元気に嫌われよう。

三股 金利